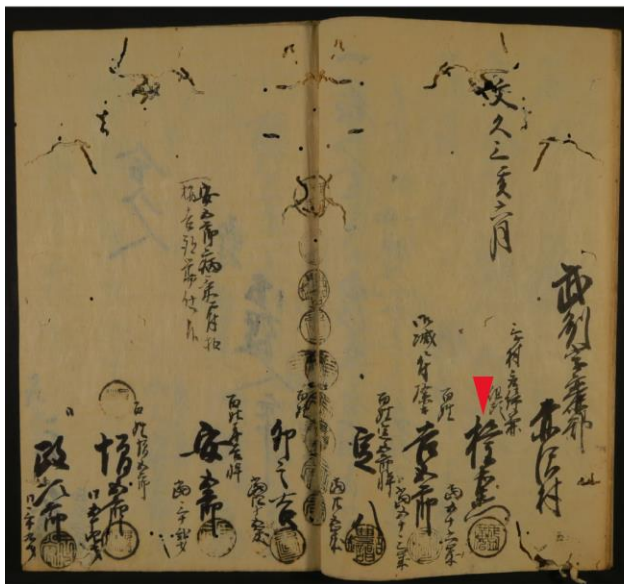


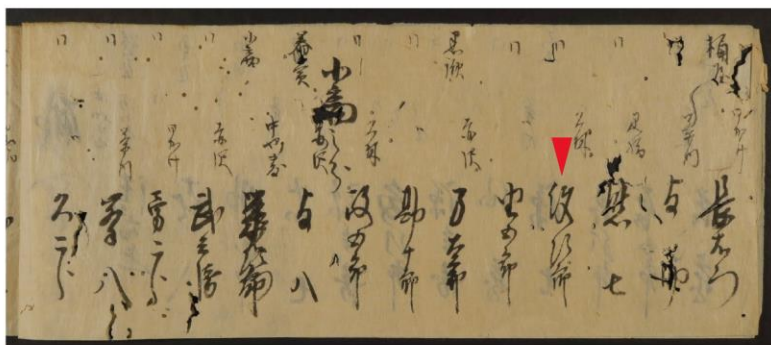
今月の一品 平成 28 年 12 月

御上洛御用人夫権右衛門の人生

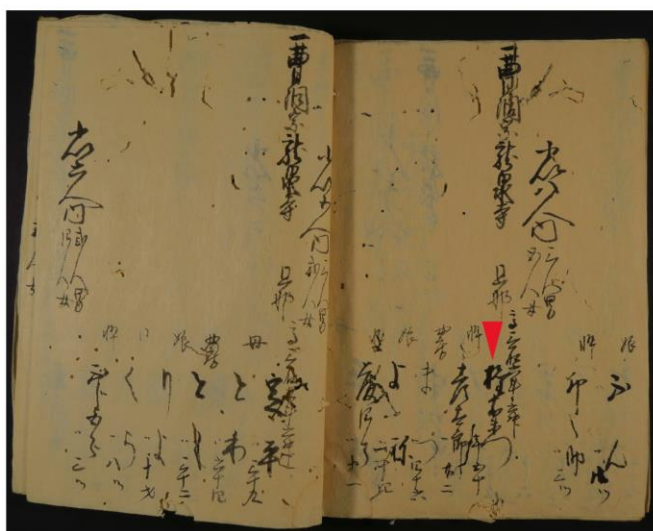
赤沢村浅見讓二家文書



文久 3 年御用人夫請印帳 No.332



天保 9 年小商職人書上連銘帳 No.446



安政 4 年宗門人別書上帳 No.8

江戸幕府最後の将軍一橋(徳川)慶喜の領地であった赤沢村(現在の飯能市赤沢)の権右衛門は、文久3(1863)年10月赤沢・原市場・唐竹三ヶ村の人足取締として京都に向けて出発します。在京期間は10ヶ月にも及び、その間一橋家の中間人足を務めていました。権右衛門は、村では桶屋を営むとともに組頭の役にも就いていました。これらは、その権右衛門の足跡がうかがえる古文書です。

○上・文久3(1863)年御用人夫請印帳
人足として京都に行ったのは56歳のとき。体力的には厳しいものがあつたのではないのでしょうか。

○中・天保9(1838)年小商職人書上連銘帳
権右衛門は、若い時には紋次郎という名前で、桶屋をしていました。父の死後にその名前を受け継いだのです。

○下・安政4(1857)年宗門人別書上帳
権右衛門にはこの時、妻と3人の子どもがいました。家族は京都にいる家の大黒柱を心配していたことでしょう。